

平成26年度 長野県指名強化審判講習会 報告書



期 日：平成26年9月27日（土）・28日（日）
会 場：佐久市総合体育館

平成26年度 長野県指名強化審判講習会 実施要項

- 1 目的 日本協会より講師を招き指導していただくことにより、上級を目指す審判員の意識の高揚と改革をねらい強化を図る。
- 2 テーマ 「上級審判員になるために必要とされること」
- 3 主催 長野県バスケットボール協会
- 4 期 日 平成26年9月27日(土)・28日(日)
- 5 会 場 佐久市総合体育館
〒385-0051 長野県佐久市中込2939 TEL0267-62-2020
- 6 日 程 9月27日(土)
 - 9:00～ 開講式
 - 9:20～ 講義
 - 10:30～ 実技Ⅰ(男子ゲーム)
 - 13:30～ 実技Ⅱ(女子ゲーム)
 - 15:00～ 実技Ⅲ(男子ゲーム)
 - 17:00～ 講師を囲んでディスカッション
 - 19:00～ 懇親会9月28日(日)
 - 11:00～ 実技Ⅳ(男子ゲーム)
 - 12:30～ 実技Ⅴ(女子ゲーム)
 - 16:00～ 閉講式
- 7 講 師 (財)日本バスケットボール協会 審判指導委員会指導グループ 星河 良一 氏
- 8 受 講 者 平成26年度 重点・強化・女性強化・若手強化審判員の中から指名した者
- 9 大 会 名 平成26年度 長野県総合バスケットボール選手権大会
- 10 連絡責任者 長野県バスケットボール協会審判委員長 大井 明

平成26年度 指名強化審判講習会 受講者

		氏 名	年齢	性別	
1		スズキ マコト 鈴木 誠	35	男	重点審判員
2		イワツキ リョウジ 岩月 遼司	28	男	重点審判員
3		エトリ ダイスケ 江取 大介	33	男	強化審判員
4		タナカ ヒロシ 田中 広志	32	男	強化審判員
5		ヨシダ トモミ 吉田 知実	31	男	強化審判員
6		アイザワ マサキ 相澤 昌輝	29	男	強化審判員
7		スギウラ タカスミ 杉浦 敬純	27	男	強化審判員
8		タナカ ミカ 田中 実佳	28	女	女性強化審判員
9		コガネザワ ナナエ 小金澤ななえ	25	女	女性強化審判員
10		ハラ テルキ 原 照貴	19	男	若手強化審判員

開 講 式

【挨拶】 長野県バスケットボール協会 副会長 荒井 邦夫 氏

この講習会も恒例となって位置付いてきた。

講師の先生には長野県のために来ていただき感謝したい。

この講習会に参加している審判員には「職人」になってほしい。技術を身につけ仕事を成し遂げる「職人氣質」というこだわりをもった審判員として、試合に臨むと同時に上級審判員を目指してほしいと思っています。



【地元歓迎の挨拶】 佐久バスケットボール協会 会長 原 拓男 氏

審判員として求められるのは技術だけではない。アテネオリンピックでその大切さを実感した。今回の講習会では技術も含め講師に指摘していただく良い機会にしてもらいたい。

【挨拶・講師紹介】 長野県バスケットボール協会 審判委員長 大井 明 氏

講師の星河先生が「この二日間しかない。この機会を大切にしてほしい。」とおっしゃっていた。その言葉通り、この二日間で審判技術だけでなく、審判に対する考え方や姿勢などについても積極的に質問して良い機会にしてほしい。



講 義



講義を始めるにあたって、講習会があると講義の内容を書くことにエネルギーを使う人がいるが、話の内容を頭で考えることにエネルギーを使ってほしい。

①自分が考える上級審判員に必要とされること

〈受講生から出された意見〉

- ・スムーズなゲーム運営
- ・周囲から信頼される
- ・どのカテゴリーの試合でも対応できる
- ・チームから任される
- ・目立たないが存在感がある
- ・表現力

全部正解。チームに個性があるように審判員にも個性があります。だからみな正解。しかし、最初から身に付いているものではありません。今すでに身に付いているものもあれば、これから経験を積むことで身に付いていくものもあります。

②これからの上級審判員が自覚しなくてはいけないこと

『技術の理解』

永遠の課題であり、審判員には絶対に必要です。時間をかけて努力して技術を身に付けた選手が、勝ち上がっていった全国大会で「その技術はルール違反だよ。」と言われるような判定があってははいけません。そうであれば、地区大会の一回戦で判定しなければいけない。また、ルールブックだけで判定するのは独りよがりです。技術論とルールを照らし合わせて判定することが上級審判員だけでなくすべての審判員に必要なことであります。それが我々の役割です。

『周囲の理解と活動エリアの広がり』

今日のディスカッションのテーマのひとつにもあげる予定ですが、我々はプロではなくアマチュアです。自分の生活の軸足は仕事であり、また多くの人が自分ひとりで仕事をしている訳ではありません。そのために、審判をしていくには苦勞する事もあり、悩む事も多い。しかし全てを解決できるものではなく、また避けては通れないもの。

上級になると今の活動エリアから飛び出して行かなくてはならない。公認は県内を中心に、A級はブロックを中心に、力をつけたA級が近隣で行われる全国大会で、AA級は各種全国大会で活動をします。全国大会ならば一週間前から現地に入ることもあります。上級を目指すということは、そういった事を考えて進んでいくこととなります。

『英語力』

言葉が話せるようになると世界が広がります。語学力がつくと選手の感情の起伏をコントロールできます。国内でも外国籍のプレイヤーがいます。彼らは文化や生活が違うために日本人選手と比べてフラストレーションをためやすいです。チーム内の外国人選手がひとりでもフラストレーションをためるとチームメイトの日本人選手の精神状態も揺れる。コーチもここぞとばかりにアピールをしてくる。上級はそういう試合を担当します。

サッカーの元国際審判員のコリーナさんは五カ国語を話せるそうです。試合中に感情の起伏が激しくなりそうな選手には自分から話しかけてクールダウンさせます。そういった事もこれからの上級審判員には求められます。



『バスケットボールの発展のために』

バスケットボールにおける上級審判員はコートの上ではプロフェッショナル。有料ゲームを担当します。お金を払う観客の中には、熱心なファンや様々な立場の人がいます。チームだけでなく、特定の選手やゲームの勝敗を見に来ます。観客にとっても常に公平な審判員でなくてははいけません。

また、ルールのマイナーチェンジが続いています。これはバスケットボールの特性をより高め、観客が楽しめるようにする為だということを知っておく必要があります。チームもそのことを理解しなくてははいけません。審判員とチームは常に同じ大きさの存在であり、常につながり合い、同じ目的に向かって進んでいかなくてははいけません。しかし規則の管理人である審判員は、選手やコーチと見え方が違う。

その違いを伝えることが「つながる」ということ。バスケットボールの発展が目的であり、スポーツがひとつの職業となっていく未来を造っていくことに繋がります。

上級審判員になるということは、その一端を担うことです。上級審判員の大切な役割のひとつであると考えます。ルールや技術の理解も必要ですが、これからの上級審判員にはこのような資質が求められます。

実 技 研 修 (一日目)

実技Ⅰ (B2 男子 東海大三Sea Gulls - 長商クラブ)

主審：江取 大介 副審：相澤 昌輝

講師より

- ・ 県内のチームを同県の審判員で担当しているなかで、よくないプレイがたくさんあった。この試合だけでなく今まで取り上げられていないということ。ここにいる審判員全員に危機感をもってもらいたい。
- ・ バスケットボールの動きではないプレイ（触れ合い）をしている選手がいた。そういう選手に好き勝手させてはいけない。主導権は審判がもつこと。プレイを生かすも止めるのも審判が決める。
- ・ プレイに近い審判が判定することが説得力のある判定になる。エリアを越えて判定するとベンチからクレームがくる。ゲームが審判の手からこぼれる原因。エリア分担などをプレゲームカンファレンスでしっかりと確認しておくこと。
- ・ 試合開始5分でテクニカファウル、アンスポーツマンライクファウルなど該当するものはすべて取り上げる。様子見は必要ない。基準を示す。
- ・ 日本ではテクニカルファウルを取り上げにくい雰囲気があるが、パーソナルファウルと同じように取り上げる。審判の人間性を否定する言動に対しては必ずテクニカルファウルを取り上げる。
- ・ 主審も副審も基本的には同じ権限をもつ。二人が同じという雰囲気をプレゼンテーション（コートへの入り方、器具のチェックなど）で見せることも必要。



実技Ⅱ (B4 女子 信州大学 - FLAPPERS)

主審：杉浦 敬純 副審：原 照貴

講師より

- ・ 全体的に良かった。よく頑張っていた。
- ・ 今後さらに良い審判員になるためにはゲームの流れを切らないようにすることが大切。バランスの良いチーム同士のバスケットボールなので審判はやりやすかったはず。
- ・ チームのやりたいことを我々審判は邪魔しない。しかし、イリーガルなものは取り上げる。



- ・ オフェンスの速攻を止めてしまった判定。ファウルだけ取り上げないこと。プレイヤーの思いをよく考えてあげること。
- ・ 試合がおもしろくなってくると往々にして我々審判は笛を吹きたがるが、そういうときこそしっかりと確認すること。

実技Ⅲ（B5 男子 信州大学 — 古川同盟）

主審：鈴木 誠 副審：田中 広志

講師より

- ・ 点差が大きく開いたため、集中力を保つのが難しい試合だった。
- ・ トレイルのポジショニングは、プレイに応じて変える。この試合ではセンターの争いが多かったため、二人で協力して見なくてはいけない。飛び込むリバウンドが多いとリードだけでは見にくい。トレイルが積極的に見に行くことが必要だった。
- ・ ハンドチェックや腕の使い方はどうだったか。取り上げていないわけではないが、手に関するプレイが多かった。ディフェンスだけでなくオフェンスが手を巻いて抜いていくプレイも同じように取り上げるべきだった。
- ・ 手の使い方は勝敗に大きく影響を与えるので、早めに取り上げることが大切。



講師を囲んでのディスカッション

今後の審判活動の参考になるように、それぞれが抱える悩みや課題を全員で共有し、経験や取り組みなどについて自由に討論をした。

話し合われた主なテーマ

『環境づくり（家庭、職場）』

- ・ 普段は家族と過ごす時間を大切にする。
- ・ 審判活動を理解してもらおう。
- ・ 自分の仕事に責任をもって取り組む。
- ・ 審判以外の時間を有効に使って仕事に取り組む。

『健康、体力づくり』

- ・ 食事には気を遣っている。
- ・ 毎朝ランニングをする。
- ・ 職場の環境を利用する。



『審判技術向上のための工夫』

- ・毎日バスケットボールのビデオを見ている。
- ・独りよがりの判定にならないようにチーム（コーチ）から話を聞いたりして判定力を上げている。
- ・練習試合などでよりレベルの高いゲームを吹く。
- ・高いレベルのゲームを吹きに足を運んでいる。

実 技 研 修（二日目）

実技Ⅳ（A2 男子 ANTELOPES - DEVELOPER）

主審：岩月 遼司 副審：吉田 知実

講師より

- ・難しいゲームだったが、こういうゲームの経験を積むことが大切。
- ・このゲームの山場は1～2ピリオドにかけてのところにあった。そのなかでラグビーのような接触があった。ゲームをスムーズに進めるための仲間であるコーチ、キャプテンに「いけないものをコーチングしてくれ」という意図を伝えること。あらかじめ伝えることも大切。
- ・ファーストコールはとてもよかった。レポートにしている間、相手審判はその場で選手の掌握をすること。判定に対してのアピールを受けとめる準備をしておく。このゲームならなおさら必要。
- ・ゴール後に味方選手がボールに触れていたが、触れさせてはいけない。注意をあたえるべきだった。
- ・ゲーム中に笛を口から外して注意をしていたが、それよりもまず吹く。
- ・両チームに甘い印象を与えないようにすること。



実技Ⅴ（B3 女子 信州大学 - フカガワ）

主審：田中 実佳 副審：小金澤 ななえ

講師より

- ・瞬発力と持久力を身に付けること。
- ・リードは、右サイドで2対2がある場合は早く行く。中途半端に行くとトレイルの迷いにつながる。行かないならトレイルに任せる。
- ・トレイルは二人とも高い。互いにリードに負担をかけている。リードへの移行も早すぎる。もっと見届けること。一步3ポイントラインの中に踏み込むつもりで。
- ・ファウルの三原則に沿って判定すること。基準の甘さを感じた。
- ・エリア5での触れ合いについては、ファウルとしてもっと取り上げるべき。



閉 講 式

【講評】 星河 良一 氏

- ・二日間通しての受講生の印象は、全体的におとなしいと感じました。自分たちのやっていることに責任や自覚をもっと持っていていい。過小評価はしないこと。おとなしさがコートの中では弱さにつながる。
- ・審判を軽蔑するようなしぐさはテクニカルファウルとして取り上げる。そのような言動はスポーツの場面として見苦しい。試合を見に来る人は、すっきりしたくてスポーツを見に来る。その状況の中で試合の雰囲気がおかしなものになるのはよくない。観客に提供してはいけない。
- ・審判は空気のような存在。ただし判定するときは大きく目立つよう存在感を出すように。
- ・触れあいに対して危機感を持つこと。試合開始5分で基準を示す。また、日頃からチームとして審判みんなで確認する。そして試合で取り上げる。
- ・上級審判員には、「リーダーシップ」「社会人としての自覚（豊かな人間背）」「両立（仕事、審判、プライベート）」「仲間、後継者づくり」が求められる。心身の健康管理、スケジュール管理、人として職場、家庭における環境整備に努め、普段・不断の努力を続けること。ファイナル4を担当し、観客に楽しい試合を提供できる審判を目指しましょう。そして、バスケットボールの発展に貢献する自覚をもってほしいと願います。



【お礼】 長野県バスケットボール協会 副会長 荒井 邦夫 氏

二日間ありがとうございました。星河先生の受講生を見る優しいまなざしに感動しました。受講生の皆さんが先生の周りに集まって、話を聞こうとする姿が見られました。先生の話を受ける皆さんは本当に幸せ。審判技術はすぐに上手くなるわけではないと思いますが、この二日間で先生に教えていただいた事を肝に命じてこれからの試合に臨んでほしいと思います。レベルアップした姿を見せることが星河先生への恩返しにつながります。

【お礼】 長野県バスケットボール協会 審判委員長 大井 明 氏

貴重な二日間が終わる・・・この二日間、本当にいろいろな言葉を先生からいただきました。内容としては厳しいご指摘もありましたが、それらも含めて、今、振り返ると先生の温かさを感じております。みなさんは、それぞれにこれから頑張っていく為の多くのヒントをいただきました。しかし、それだけで終わりにしてはいけません。自分の課題をひとつひとつ克服しレベルアップをしていく・・・。そんな集団でいることをこれからも願っています。

星河先生、本当にありがとうございました。

受講者の感想

	【講習会の感想】	【今後に向けて】
 鈴木 誠	<p>「これから上級審判員に求められること」という講師のお話を聞き、単にバスケットボールの技術や理解だけ考えてはいけないうのだと知りました。その根底にあるもの、バスケットボールを楽しむすべての人のために公平な審判員であることの大切さを実感しました。</p>	<p>とはいえ、まだまだバスケットボールおよび審判の技術理解が足りていないのが現状です。まずは一つ一つのことを地道に積み重ねていながら、講師に教えていただいたことを実践していこうと思います。また、チームとして切磋琢磨して審判員のレベルをみんなで上げていくことにも取り組んでいきたいです。</p>
 岩月 遼司	<p>・2日目のみの参加となりましたが、講習ゲームでは『審判とはどういう存在なのか』ということを教えていただき、今後の課題が明確になりました。まだまだ自分が審判としてすべき行動や選手に求めなければいけないことを改めて学ぶことができました。また、審判として自分を向上させるためには、消極的ではなく、常に自分から求めていく姿勢が重要だと星河講師の言葉から強く感じました。</p>	<p>・審判とはどういう存在でなければいけないのか、ということ常日頃から考えるようにするとともに、ルールブックの熟読、熟知が必要であると感じました。また、もう一度、自分のレプリングを見つめ直し、笛を吹くことで自分の存在感をコートに表現できるようにしていきたい。そして、県外へ出る機会があったときには、様々な人と交流し、いろんな考えを吸収し、自分を向上できるようにしていきたいです。</p>
 江取 大介	<p>普段通りに、ありのままの姿を見てもらうことを考えていた。普段から言われているような面が、指摘の中でもとところどころあったので、こつこつと与えられたことを、意識をもってやっていくしかないかと感じた。また、反省会の中で特に指摘された、県全体の意識の向上、レベルアップに向け、私が今の立場で今できることをやっていきたい。</p>	<p>私の中で、基本的にはパーソナルファウルで終わりにしたいという思いが強いが、ゲームの状況に応じて、テクニカル、アンスポを視野に入れておくことを考えたい。そのために、星河さんが盛んに言っていた、心理学を学びなおしたいと思う。</p>
 田中 広志	<p>「最初の5分で、基準を示し、バスケットボールの動きをやらせること」「テクニカルやアンスポは特別なファウルではない」など、星河先生の講義をお聞きして、自分のバスケットボールの捉え方の甘さを痛感した。もう一度、原点に戻って、バスケットボールに則さない動きに対して、丁寧にみること。2人で協力して、より近い方の審判が正しい判定ができるようにしていきたいと感じました。</p>	<p>出来る限り、多くの大会へ参加させていただき、ゲームを吹いていきたい。 レベルの高い低いではなく、割り当てられたゲームを責任もって吹き切ることができるように努力をし、また、細かな部分でコートへの入り方や、パートナーとのミーティング、体のコンデジション作りなどを意識的に行い、どんなゲームも緊張感を持って臨んでいきたい。</p>
 吉田 知実	<ul style="list-style-type: none"> ・実技講習では、ゲームを管理する立場として気をつけなければならない点を星河さんに指導して頂き、日頃の審判活動がいかに大切かを改めて痛感しました。判定以前に、選手やベンチ、TOと協力して、観ている人が楽しいバスケットボールを作っていきたいと感じました。 ・星河さんの温かい人柄、そして一生懸命我々の真意を聞こうとして下さる姿に、感銘を受けました。また、審判のみに非ず、長野県のバスケットボールを盛り上げていこうとたくさんのご示唆をいただけたことが、本当に有難かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事、家庭など、バスケットボール以外にも大切にしたいものが沢山ありますが、バスケットボールのレプリ活動を通して、より一層人間として成長したいという気持ちが高まったので、同じレプリ仲間と一緒に高い志を持って今後も全力で取り組んでいきたいです。そして、学んだことを後輩にどんどんと伝えていくことも大切にしていきたいです。 ・「上級審判員になる」という目標が更に強く意識するようになったので、今の自分に足りないものを克服し、自分の長所をもっと追究し、プレイヤーやベンチはもちろん、観ている人が楽しめるゲームと一緒に作っていけるレプリを目指して全力で努力していきたいです。

	【講習会の感想】	【今後に向けて】
 <p>相澤 昌輝</p>	<p>バスケットボールらしくない触れ合いを良しとしていたり、自分の目の前のプレイをちゃんと鳴らせなかったり、いかにこれまでの自分の取り組みが甘かったのか思い知りました。また、講師の星河さんがとても気さくな方で、審判のことに限らずいろいろなお話をお聞きすることができて楽しかったです。ありがとうございました。</p>	<p>今回の講習はなかなか無いとても貴重な時間でしたが、これからもまだまだ頑張っていかなければいけないと思える機会となりました。今回、このような体験ができる機会をいただき、ありがとうございました。今後もみなさんと一緒に、皆さんと学び合いながら技術の向上に励んでいきたいと思っております。</p>
 <p>杉浦 敬純</p>	<p>とても充実した講習会でした。星河さんの講義はとても面白く、オンザコート、オフザコートの話は参考になることばかりでした。また、長野県のこと、日本のバスケットのことを本当に考えていることに感動しました。バスケットの特徴、魅力を考え感じながらレフリーをしていきたい。</p>	<p>一番大事なことは環境作りをしっかりとやることだと感じました。苦しい環境の中でも短命に終わらず、続けていきたい。まずはできる環境の中で精一杯活動し、向上していきたい。また、謙虚でありながら必要に応じては自己主張できる人間になりたい。</p>
 <p>田中 実佳</p>	<p>星河先生に色々なお話をしてもらった中で、上級審判員になることが全てじゃないという言葉聞いて、心のどこかでほっとした自分がいました。ディスカッション形式の講義で、普段なかなか聞くことのできない悩み事を聞いたり自分自身でも改めて考える事ができたので、自分を見つめ直すいい機会になりとても良かったです。</p>	<p>お話の中にもあったようにライフマネジメントもしっかりと考えながら、まずはプレイヤー、ベンチからこの審判員なら…と思ってもらえるような女性審判員になっていきたい。</p>
 <p>小金澤ななえ</p>	<p>自分の課題を明確にすることが出来た講習会となった。今後、自分のやるべきことをはっきりとさせ、優先順位をつけて行動していきたい。また、たくさんの方々に支えられて今の自分があるということに改めて気づかされた。自分のことを応援して下さっている方々のためにも、同じ目標に向かって一緒に頑張っている仲間のためにも、今まで以上に努力し、頑張っていかなければならないと強く感じた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・脚力を付け、どんなゲームでも走り負けないようにする。 ・自分から積極的に行動できるようにする。審判関係だけではなく、日常生活から積極的な行動をし、自分から行動していく。 ・気遣いが出来るように常に周りを見る。 ・バスケットボールに携わるすべての方々へ、感謝の気持ちを持ち、今後も精一杯努力し、取り組んでいきたい。
 <p>原 照貴</p>	<p>上級を目指すには審判力は必要であることは前提である。今の上級には語彙力(英語)は外国人のコーチやプレイヤーが増える中で重要である。また、審判を行うに当たって周りの環境の理解があるから審判ができる。だからこそ、環境にも配慮が必要である。審判は選手のためだけではなく観客のためにもというこいとを忘れてはならないことを知った。</p>	<p>今後のビジョンとして試合を任せられ、審判として1試合吹くにあたって選手のプレイの特徴を捉えたい。また、コーチや選手に説明を求められた時に納得できる説明ができるようにしたい。県内だけでは審判の知識及び技術はの向上には限界があるので県外にも多く行き、多く経験を積んで知識及び技術の向上に努めたい。</p>